

# 早産児予後に影響を与える産科要因の検討

東京大学産婦人科

坂元正一, 桑原慶紀  
相良洋子

## 研究目的

早産児の場合は、出生前の産科要因が出生後の児の予後に大きな影響を与えられ考えられる。そこで、どのような産科要因、すなわち子宮内環境の変化や胎児の状態が、児の予後に関与するか検討した。

## 研究方法

対象は昭和48年から昭和56年の9年間に、東大病院産婦人科で出生した早産児234例で多胎及び致死の奇形を合併した例は、除外した。

予後の判定は、院外生活可能となって退院した症例を良好例とした。

## 研究成績

予後良好例は、234例中220例(94.0%)であった。分娩周数ごとに児の生存率を比較すると、29週以降ではほぼ100%に近い生存率が得られた。しかし26週以前に分娩した6症例は全て死亡しており、27~28週では生存例は7例中3例のみだった。

在胎周数以外に、児の成熟度や予後に関与する可能性がある因子として、前期破水、子宮内胎児発育遅延、latent Fetal Distressや性別などを検討してきたが、生存率の面で有意の関係が認められたのは、前期破水のみであった。すなわち、分娩週数27週以降の前期破水例(120例)中、先天性十二指腸閉鎖症で術後死亡した1例を除き、他は全て予後良好であった。これに対し前期破水を併わない27週以降の分娩例(108例)の予後良好例は、101例で特に妊娠27~28週の分娩例(4例)は全て予後不良であった。

妊娠27~28週の分娩例7例を個々に検討すると、予後良好であった3例は、全て前期破水例であり、破水から分娩まで34時間以上経過していた。一方予後不良であった4例中、1例は自然陣

発症例で残りの3例は頸管無力症例であった。

## 考 察

以上の結果から分娩週数が児の予後を大きく左右する事は明らかであり、妊娠30週以降の分娩例では特別な合併症のない限り児の予後は良好であると考えられる。これは、ハイリスク妊娠の管理において分娩誘導の時期を決定する際、一つの基準になる。

前期破水例の予後は、比較的良好なのは既に報告されている通りであり、児にとっては子宮内環境の悪化というべき状態が、児の成熟を早期に誘発し胎外生活への適応力を促進すると考えられる。これは特に妊娠27~28週の分娩例で明らかであり、前期破水例のみが生存している。頸管無力症が原因で早産に至った症例では、児は全く分娩準備段階を経ず突如胎外生活を強いられた事になり児は機能的にも未熟なままで、環境の変化に適応できない状態であったと言える。

妊娠26週以前では例え前期破水例でも児の予後は悪く、この時期では高度の未熟性の為適応力は期待できない。

すなわち早産児の予後を決定する最大の要因は胎児の機能的成熟度であり羊水を用いた成熟度検査は、周産期管理上極めて重要である。しかし成熟度と一番よく相関するのは在胎周数であり、周産期管理の第一歩として正確な妊娠週数を把握する必要がある。この点では著者らが、昭和56年に報告した超音波断層法による妊娠週数推定法が有力な手段となりうる。

前期破水例では、胎児感染の問題もあり、いたずらに在胎期間を延長させれば良いとは言えず胎児成熟度とのかね合いで分娩時期を決定しなければならない。その際に妊娠28週と妊娠30週がそれぞれ第一段階、第二段階の目標となる。

今後は、より正確な総合的な胎児成熟度の判定

法と早産防止法の開発が望まれるが、一方では機能的に極めて未熟な超未熟児の哺育も子宮内胎児

発育により、シンクロナイズされた方法を確立する必要がある。

<表1>

### 分娩週数及び前期破水の早産児生存率に及ぼす影響

分娩週数		24	26	27・28	29	30	31	32	33	34	35	36	計
前期破水	+	0/6 (0)	3/7 (42.9)	7/8 (87.5)	3/3 (100)	7/7 (100)	15/16 (93.8)	11/12 (91.7)	28/28 (100)	40/40 (100)	106/107 (99.1)	220/234 (94.0)	
	-	0/1 (0)	0/4 (0)	4/5 (80)	2/2 (100)	3/3 (100)	7/7 (100)	6/7 (85.7)	15/15 (100)	12/12 (100)	52/53 (98.1)	101/109 (92.7)	
	+	0/5 (0)	3/3 (100)	3/3 (100)	1/1 (100)	4/4 (100)	8/9 (93.8)	5/5 (100)	13/13 (100)	28/28 (100)	54/54 (100)	119/125 (95.2)	

<表2>

### 妊娠27・28週の分娩例

症例	母体年齢	経妊	経産	週日	分娩様式	早産の原因	児		
							性別	体重	予後
1	26	0	0	27-6	✓	前期破水(93時間)	F	1140	良
2	39	2	1	28-6	✓	前期破水(264時間)	M	1606	良
3	30	1	1	28-0	✓	前期破水(34時間)	F	1100	良
4	33	2	1	27-0	✓	自然陣発	M	1300	不良
5	28	3	1	28-5	✓	頸管無力症	M	1330	不良
6	28	0	0	28-5	✓	頸管無力症	F	1100	不良
7	39	6	1	28-3	✓	頸管無力症	M	1440	不良

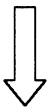
✓: 経膈分娩

( ) 内は破水後分娩までに要した時間

母子愛育会図書



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



#### 研究目的

早産児の場合は,出生前の産科要因が出生後の児の予後に大きな影響を与えら  
れる。そこで,どのような産科要因,すなわち子宮内環境の変化や胎児の状態が,児の予後に  
関与するか検討した。